

## コンポーネント起動時に事前設定に従い起動時にポート同士を接続する（非同プロセス）

2015/12/22 09:44 - n-ando

ステータス:	終了	開始日:	2015/12/22
優先度:	通常	期日:	2016/03/25
担当者:	miyamoto	進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	20.00時間
対象バージョン:	RELEASE_1_2_0		
<b>説明</b>			
コンポーネントコンフィギュレーションファイルに設定することで、起動時にネームサーバに登録されているコンポーネントのポート同士を接続する機能を実装すること。			

## 関係しているリビジョン

リビジョン 664 - 2016/02/26 19:09 - miyamoto

[compat,-&gt;RELENG\_1\_2]The processing in initPreConnection() method has been changed. refs #3404

リビジョン 938 - 2018/01/25 11:54 - miyamoto

[compat, -&gt;RELENG\_1\_2] refs #3404

## 履歴

#1 - 2016/01/14 16:17 - miyamoto

- 期日を2016/03/25にセット

- 担当者をmiyamotoにセット

- 対象バージョンをRELEASE\_1\_2\_0にセット

- 予定工数を20.00時間にセット

#2 - 2016/02/26 18:28 - miyamoto

- 進捗率を0から50に変更

[#3402](#)で実装したinitPreConnection関数内に非同プロセスで起動したRTCのポートを接続する機能を追加した。具体的には[#3411](#)のrtclloc形式、および[#3401](#)で実装したrtcname形式が利用できる。

rtcname形式は以下のように記述できる。

rtc.confには以下のように記述する事で、ポートの接続が行われる。

manager.components.preconnect:rtclloc://localhost:2810/example/TestComp20.in^TestComp10.out()

manager.components.preconnect:rtcname://localhost:2809/test.host\_cxt/TestComp20.in^TestComp10.out()

ポート名の間には"."を記述していたが、rtclloc形式の記述内に"."が存在するため"^"に変更した。

ポートを保持しているオブジェクトリファレンスの取得には[#3411](#)で実装したNamingManagerクラスのstring\_to\_component関数を利用した。

またrtcname形式でのオブジェクトリファレンス取得のためにCorbaOnNamingクラスにstring\_to\_component関数を追加した。

#3 - 2016/02/26 18:33 - miyamoto

- ファイル test\_Manager\_new2.py を追加

添付のコードのtest\_PreConnection関数でテストを行った。

まず2つのプロセスでRTCを起動し、managerのinit関数で別プロセスで起動したRTCのポートと接続するように設定した。そしてtest\_PreConnection関数内でalready\_connected関数により接続を確認した。

#4 - 2016/03/17 10:59 - miyamoto

- 進捗率を50から100に変更

#5 - 2017/08/30 14:19 - n-ando

- ステータスを新規から終了に変更

## ファイル

---

test_Manager_new2.py	5.78 KB	2016/02/26	miyamoto
----------------------	---------	------------	----------